



第44号

平成24年3月22日

JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東日本大震災 MSW災害支援ニュース



群馬県安中市の秋間梅林

目次

1. 災害対策本部からのお知らせ
2. 災害対策本部会議の報告
3. 災害支援報告書①②③④⑤⑥
4. 現地・事務所感想文

災害対策本部からのお知らせ

現地・事務所協力員募集！！

引き続き、現地・事務所協力員を募集しています。

特に現地は、**3/29(木)以降**はずっと人員が不足しています。

「今さら参加してできることはあるのかな？」と迷っている方いませんか？

遅すぎることはありません。まさに「今」必要とされています！

初めての方もぜひご協力をお願いいたします。

現地・事務所職員募集！！

現担当者の任期満了にあたり、下記の職員を募集します。

災害支援に関心のある方からのご応募をお待ちしております。

または周りでご興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介下さい。

(1) 現地常駐者（短期契約職員） 2名

- ・就業場所：宮城県石巻市大街道北
- ・就業時間：9～17時
- ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・基本給 250,000円/月 通勤費は実費支給
- ・社会保険加入
- ・医療ソーシャルワーカー業務経験必須
- ・4月より勤務開始希望

(2) 災害対策本部事務所担当（パート職員）1名

- ・就業場所：協会事務局内
- ・就業時間：週4日程度 10～17時
- ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・時給 900円～ 通勤費は実費支給
- ・経験不問、医療ソーシャルワーカー業務経験者優遇
- ・4月より勤務開始希望

***業務の都合等により残業や休日出勤となることがあります。**

ご応募の方は下記宛に履歴書をお送り下さい。面接にて決定させていただきます。

または災害対策本部までお気軽にお問い合わせ下さい。

〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル

TEL：03-5366-1057 担当：笹岡・中川・一原

経費の精算について

今年度、現地や災害対策本部事務所の活動にご参加下さった皆様、交通費など経費の精算はお済みですか？

年度をまたぐと支給できませんので、お済みでない方は、至急、手続きをお願いいたします！

所定の用紙（*）にご記入いただき、領収証・レシートを添付の上、下記までご郵送下さい。

（*）http://www.jaswhs.or.jp/upload/Img_Doc/11_Img_Doc.doc

〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

日本医療社会福祉協会 中川宛

他団体研修情報

(1) ソーシャルケアサービス従事者研究協議会シンポジウム

3.11 東日本大震災に学び、復興支援を考える集い
～災害とソーシャルケア 被災者の目線から支援の方法を考える～

日時 3月25日(日) 10:00～17:00

午前 基調報告、各団体活動報告

午後 シンポジウム

会場 文京学院大学 本郷キャンパス 東京都文京区向岡 1-19-1

※詳しくは、協会ホームページの「他団体研修情報」をご覧ください。
災害支援活動のページの「新着情報」にも掲載しています。

Facebookでも情報をお伝えしています！

およそ2日に1回の頻度で、現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。
ホームページをあまり頻繁にご覧にならない会員、災害支援関連の他団体の皆様、
その他広く一般の方々を知って頂ける機会になればと思っています。

Facebookのアカウントをお持ちでない方もご覧いただけます。
お持ちの方は、「いいね！」やコメントを寄せていただくと、
現地のSWも本部も大変勇気づけられますので、どうぞよろしくお願いいたします。



-Facebook URL-

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

ソーシャルワーカーとして、被災地の人達のために何が出来るのだろうか。役立つことはあるのだろうか。自問自答の日々でした。

石巻では震災被害の中で公的機関や本来役割を果たすべき機関の機能低下が起こっている状況があり、「誰がどうすべき」という理屈だけでは対応できないことが起こっているのだと知りました。出来ることを出来る人が行っていく。そこから前に進んでいくのだろうと感じました。

家族が亡くなった人、家を失った人にかける言葉が見つかったわけではありません。それでも現地で寄り添い続けることで、見えてくる役割があるのではないかと信じたいと思います。現地に寄り添い続けている武山さん、行く機会を与えてくれた協会の皆さんに、この場を借りて感謝申し上げます。今回 3 回目となる滞在では、主に在宅避難者に関するプロジェクトに関わらせていただきました。その報告をさせていただきます。

1. 石巻医療圏健康・生活復興協議会のプロジェクトについての課題

<個人情報の取り扱いについて>

情報管理責任者を置くということになっていますが、協会として参加者個人に対する誓約書をとっていません。訪問班は参加者一人一人に対し、個人情報の取り扱いに対する万一の場合の損害賠償も含めた誓約書をとっていると報告がありました。（*）クラウド操作時における情報管理方法についてはマニュアルを作成しましたが、やはり個人に対しても誓約書が必要ではないかと感じます。

病院実習生に対して受入れ医療機関が患者様の個人情報を守るために誓約書を用意しているのと同様、私たちが関わる石巻市民の方々の個人情報に関しても敏感かつ厳重な管理の体制が必要であり、そのための参加者全員の事前誓約書と管理体制マニュアル（情報管理責任者が誰なのか明記含む）が必要だと感じました。

<石巻市民の情報について>

個人情報に関してはボランティア団体間でも大きな課題となっていました。「各自が知り得た情報は無断で共有されてはならない」といった個人情報取り扱いの原則がある一方で、数多くのボランティア団体や組織が個人宅へ訪問して個人情報に関する質問をして関わることは、聞かれる方の大きな負担になり、関係団体への不審につながりかねません。中間組織である災害対策復興協議会等の調整・管理機能が問われていると同時に、情報収集する前の段階での情報収集・共有に関する取り決めが必要だと感じました。

<フォローアップ方法について>

地域、土地勘、医療機関、福祉施設等の社会資源情報が不十分な短期間の滞在の中で、顔の見えない電話相談でのフォローを専門家であるソーシャルワーカーとして担うことに対し、限界があると感じました。

「全壊」の住居に住んでいるとは一体どういう状況なのか。飲酒量が多くなった人「飲んでいない」という時、どんな顔色をしているのか。訪問しなければわからない情報が多いのも確かです。何より訪問で築ける信頼関係は、電話では築きにくいことも感じました。これは参加しているほかの複数の MSW からもとまどいや不安として耳にしました。数千世帯への訪問を考えれば現状で当協会が担える数ではありませんが、せめて訪問が必要な方について時間的な余裕もてるような人員体制が必要だと感じました。現地職員採用予定と聞き、今後の活動に期待したいと感じました。

<包括支援センターとの連携について>

地域の高齢者に対しての情報を把握・相談にのる包括支援センターが協議会には参加をしていません。(負担をかけてしまうとの配慮もあり)協会とも定期的な情報交換の機会もありませんでした。包括には市からも担当地区に新たに住んでいる住民情報が来ていませんでした(市も把握していないので当然ですが)。介護保険サービス相談が必要な方の場合、包括へ依頼することになりますが、包括がいまどれほどのキャパシティがあるのか、どういった状況なのか、依頼側として知る必要があります、定期的な訪問・連携がとれるとよいと感じました。私が訪問した山下包括の担当者の方は連携と情報提供を望んでいました。また、今後スムーズな連携のため了解を得られたケースの情報提供に使用するフォーマット(ソーシャルワークサマリー)があるとよいと感じました。

2. 石巻医療券健康・生活復興協議会のプロジェクトについての意義

<電話フォローの意義について>

医療ソーシャルワーカーが電話をすることによって、生活保護・身体障害者手帳・介護保険含む社会保障制度全般の相談対応が可能になります。これは、他の職種では対応が難しいことだと思いますし、通常業務として相談援助業務を行っている医療ソーシャルワーカーが対応することで相談の質の担保が可能になっていると感じました。

実際には、滞在した1ヶ月間で私に対応し社会保障制度に繋がったのは介護保険関係の相談のみでした。実状としてはすでに介護保険サービスを利用していたり、包括支援センターが訪問していたり、通院先のMSWが介入していることも多くありました。しかし、認知症の母親を抱えながら受容できず息子が申請に消極的だったり、要介護認定は受けているものの本人の拒否で利用ができていなかったり、通院しているものの閉じこもりがちといったケースがあり、中には継続ケースとして関わる必要性も感じました。これら継続ケースに関してきめ細やかなプランニングとアプローチ、(必要に応じて)包括との連携が医療ソーシャルワーカーに求められているのだと感じました。

石巻市内の在宅被災者に関する実態把握をしている機関がどこにもない以上、実態把握をすること自体に意義があるとも感じました。地域の抱える問題や傾向が把握できれば、市役所やボランティア会議等でも情報を還元していくことも可能になりますし、実際還元はなされていました。

3. 今後のプロジェクトについて

先に課題として挙げた個人情報管理や、協議会としての個人情報の取り扱い、包括支援センターとの連携については上記の通りですが、今後の取り組みとして、まずは全ての依頼件数に連絡し、継続ケースに早期に関われる体制作りが必要だと感じました。実態把握が済んで初めてソーシャルワークとしての個別ケースのアプローチが可能となります。対策本部等でのクラウドのフォローが可能になった中、今後、柔軟に個別ケースの相談援助業務ができるよう現地での活動を全国から支え続けたいと思いました。

「一人一人が出来ることを出来る範囲で」とはいうものの、船を流されてしまった漁師さんの「かもめの声が聞きてえ」という声は石巻に来て聞ける声です。何のため、誰のためかは来てみて感じ考えられるものかもしれません。役に立つ時間があります。信じて一歩踏み出してみてください。

(*) クラウド：データを自分のパソコンや携帯電話ではなく、インターネット上に保存する。自宅、会社、学校、図書館、外出先など、ネット環境のパソコンや携帯電話からデータを閲覧、編集、アップロードすることができる。当会では他団体とデータを共有するグループウェアのような使い方をしている。

現地支援活動報告②

富永 千晶 (神奈川県 大倉山記念病院)

期間：3月5日～3月11日

3月5日から11日まで、現地にて活動を行いました。仮設住宅は、場所によって自治会が形成するのが難しいところや今まさに動きだすところ、安定しているところなど様々です。私が参加したお茶会では、お話しをする中で（カラオケも歌われましたが・・・）自治会長をする事を決断された方もいました。「こんなに笑って歌ったのは1年ぶりだよ。そろそろ、自分も動かないといけないな。」と、傾聴する中でストレンクスを見出し、その背中をそっと支える事ができたことで、コミュニティ形成支援になったのではないかと思います。

また、電話相談では、アルコールの問題や震災以降の不眠や抑うつ状態を抱えて生活している本人や家族への心理的支援や現状に適切な社会資源の提供（例えば、心理士が行っているボランティア団体や、移送ボランティア、包括支援センターなど）や、必要に応じて自宅訪問も数回行かせてもらいました。

2回目の参加でしたが、フェーズが変わりより被災地で生活されている方々の眼には見えにくい問題を肌で感じる事が出来ました。独居の方々、それ以外で家族を支えているお父さん、お母さんへのサポートをする意味でも電話相談は大きな意味があると思います。

医療ソーシャルワーカーとして、出来る被災地支援がここにあります！

そして、全国の熱い思いをもった仲間と出会える場所です。まずは、初めの一步を踏み出してみませんか？
今度は、神奈川県チームを引き連れて支援に参加したいと思います。

現地支援活動報告③

鴨崎 裕介 (北海道 小樽協会病院)

期間：3月9日～3月11日

災害支援活動は2回目で、前回は平成23年9月8日～11日の日程でした。当時は福祉避難所「遊楽館」の閉鎖が決まっている中での避難者退所援助が中心でしたが、半年経過した今回のソーシャルワーク支援は全く違ったステージでした。今回も多くのご経験させていただきましたが、ここでは茶話会と在宅避難者の個別支援についてご報告致します。

活動1日目に「お茶っこ」という仮設住宅での茶話会に参加させていただきました。多くの仮設住宅ではコミュニティ形成のため、談話室での茶話会や自治会作りが行われていますが、私たちが参加させていただいた仮設住宅では今回が初めての茶話会でした。これまでは、皆さん顔を合わせれば挨拶をする程度の付き合いはありましたが、名前や家族構成、どこから来たのかなどの情報はほとんど知らない状態でした。小さい規模の仮設住宅で15人ほどの住民の方が参加されていましたが、談話室の鍵の管理や男性参加者が少ないことなどの話を傾聴しながら、話しやすい雰囲気作りや今後どのようにしていくかを住民の方々に考えていけるような側面的支援を行いました。現地で同じSWが継続的に支援することはできないので、住民の方々にコミュニティを形成し、自治会作りなどに取り組んでいけるよう支援することの重要性を非常に感じました。

石巻に到着した夜にすぐに「要フォロー会議」に参加させていただきました。ボランティアが在宅避難者を訪問、アセスメントし、その結果をクラウドというインターネット上のネットワークで各専門職が情報共有し、どの職種が介入すると良いかがわかるシステムが構築されており、非常に驚きました。実際にクラウドを使用し、個別に電話や訪問を行い、在宅避難者の中には情報が届かず困っている方、近所の方が引越してしまい孤立している方、家族を亡くし無気力になり人と話す気力もない方、それでも前を向いて頑張っている方がいらっしゃる事がわかり、まだまだSWの支援は終わることができず、継続していくことが非常に重要であると感じました。

現地支援活動報告④

渡部 美穂子（山形県 舟山病院）

期間：3月15日～3月16日・18日

久しぶりの参加となり、通いなれた石巻道が懐かしく感じられました。今回、遊学館へ行く機会がありました。子供達が遊具で遊び、体育館で走り回り避難所だったとは思えない光景でしたが、昨年4月からの活動の記憶がよみがえり、胸がいっぱいになりました。

今の活動は、懐かしい面々にも再会することができました。今後機会があれば、遊学館を退所された方への訪問もできたらいいと思います。

他県のSWとの出会いは「財産」です。

「支援」を固く考えず、現地では自分ができることをやればいいと思います。

現地支援活動報告⑤

井上 祥明（大分県 別府医療センター）

期間：3月16日～3月18日

今回で3回目の災害支援。2回は遊楽館での退所支援でしたが在宅支援以降後は始めてでしたのでどのような活動を行うのか多少不安な部分もありました。

支援内容は在宅避難者の電話フォロー、仮設住宅へのポスティング、遊楽館退所者のフォロー、仮設住宅見学を行いました。

ある地域に3階建の仮設住宅があるという事を聞き見学させて頂きました。外見はイメージと違い仮設というよりアパートというような造りでした。その後に遊楽館を退所された方の仮設住宅にお伺いさせて頂き近況を伺う事ができました。9ヶ月ぶりの再会であったのですが憶えていてくださりお会い出来たことを喜んでくださいました。

今回の支援の中でウエイトが大きいのは在宅避難者の電話フォローでした。ボランティア団体による訪問調査で要フォローとされた方へ電話し現在の様子を伺う事が任務だったのですが電話でご様子を伺う事の難しさを若干感じましたが何かを与えるのではなく今の気持ちに寄り添うという事を念頭に置きお話しを伺いました。

中でも就労問題に関しては切実な思い出でお話しをして下さる方が数名おられ、被災地の置かれている状況を改めて実感する事ができました。来年度も支援を継続して行うと言う事ですのでまた時間を作って伺うことができると考えています。ありがとうございました。

現地支援活動報告⑥

星野 恵梨子（山形県 舟山病院）

期間：3月18日

私は今回が初めての参加。まだまだ新人で、諸事情のため一日しか参加できなかったため、一体何ができるのかという一抹の不安を抱えながらの参加でした。

しかし、着いてしまえば、そんな不安もどこ吹く風。先輩たちに連れられて、午前中はポスティング作業。午後は、在宅避難者の方へのフォローアップの電話と、やれることを教えてもらいながら、活動に参加させていただきました。

石巻の人たちは、被災者から生活者へと変わっていく大きな転換期を迎えていると思います。いかに地域社会を形成していくのか？そのための支援は専門職だからこそできるのだと感じました。

たった一日ですが、来てみての感想は率直に「来てよかった。そして、また、来たい」です。

現地感想文

3月12日(月)

暖かいはずなのに、朝方はやはり雪、日中も雪交じりのお天気雨???

水溜理事と神澤さん、初めての茶話会、仮設居室訪問デビューでした。祐ホームクリニックにもご訪問いただき忙しい一日でした。ベースでは、精力的に電話をこなしています。夜の映画紹介上映会 門脇小学校の避難・被災・子どもの証言のドキュメントは緊迫感が続き辛い程でした。DVDをぜひ見て下さい。映画完成は8月の予定です。

3月13日(火)

谷岡さんと専修大学での在宅支援会議、2時間にわたる真剣な熱い会議です。石巻市民が、今後どのように自分たちの街づくりができるか、その為の今ボラ各団体考えるところは…。市からの安易な委託に対し、こんなにも市民のための討議をたたかわせる若者たちに敬意を表します。市の職員や市議会議員に聞かせたいほどです。今は精鋭が残っているという感です。

3月14日(水)

電話中、久しぶりの強く長い揺れ「揺れてますねー」と会話する程度でした。東北の子どもたちは、きっと少しところがザワザワしたかと思います。昨日震災・津波の訓練があった女川原発も大丈夫な様子。覚悟はできていますが、できれば海は静かで綺麗な方がいいですね。

3月15日(木)

連日協会事務所にお客様です。地域の機関に頼られる関係になってきています。今日も会議のハシゴ。どちらも、中身の濃い会議でした。

3月16日(金)

1月以来の現地ですが、今日仙台で新幹線を降りた瞬間、気温の違いを感じました。あの凍えるような寒さがなくてホッとしました。そんな話をタクシーの運転手さんにしたら、「まだまだ油断できないよ～！こっちには『彼岸荒れ』って言葉があるくらいだから」と言われました。毎年必ずお彼岸の時に寒い日があって、ベタ雪が降るそうです。春が待ち遠しいです。明日から、ポスター・チラシづくり、フォロー電話など頑張ります。谷岡さんや中辻さんが整えて下さったマニュアルが素敵です。

3月17日(土)

今日は秋田の小塚さん、大分の井上さんが精力的にフォロー電話をしてくださいました。

また先週大阪チームが撮影して下さったビデオも見せていただきました。今回は、まだ収められていないフォロー電話の様子やポスティングの様子を収められるとよいかと思っています。

夜は宿舎で、初めてのどんこ鍋をいただきました。地元野菜もとても美味しかったです。明日のポスティングに向けてパワーを蓄えられたような気がします。

3月18日(日)

山形から日帰りで2名、力強い援軍が駆けつけてくれました。

暖かくてまさにポスティング日和！700件近くありましたが、コートも脱いで回りました。

25日(日)の合唱の会場となる遊楽館にも行き、ポスターの掲示をお願いしました。9月30日に閉鎖してから初めての訪問で、何だか感慨深いものがありました。

避難所として使っていたアリーナは、バスケの練習で大人と子どもが使っていて、元々こんな風に市民に利用されていたんだなと思いました。

事務所感想文

3月7日（水）

東（初台リハビリテーション病院）

事務所にパウチの機械が導入されました。マニュアルも整備され、作業がしやすい環境が整ってきているのを実感します。

3月10日（土）

田玉（初台リハビリテーション病院）

今日は渋川の伊藤さんが来てくださいました。現地での活動のお話を伺えて良かったです。みなさまのご協力に感謝です。

木村（下志津病院）

HPの更新など、一原さんにご指導頂きながらこなすことができました。ありがとうございました。また来ます。（多分天気は悪いと思います。雨男なので。）

3月12日（月）

松永（初台リハビリテーション病院）

「事務所活動早分かり表」があり、とても安心して1人でも取り組みました。一原さん、有難うございます。現地の活動報告書をいくつか読ませていただき、私もまた現地へ行きたいという思いが強くなりました。

3月14日（水）

市川（初台リハビリテーション病院）

東日本大震災から早くも1年…微力ながらも参加できた事をとても嬉しく思います。

3月15日（木）

左右田（初台リハビリテーション病院）

震災から1年、現地の活動報告を読み、継続した支援の大切さを改めて感じました。

3月17日（土）

田玉（初台リハビリテーション病院）

現地ボランティアの応募と事務所ボランティアの応募をいただき、とても嬉しかったです。